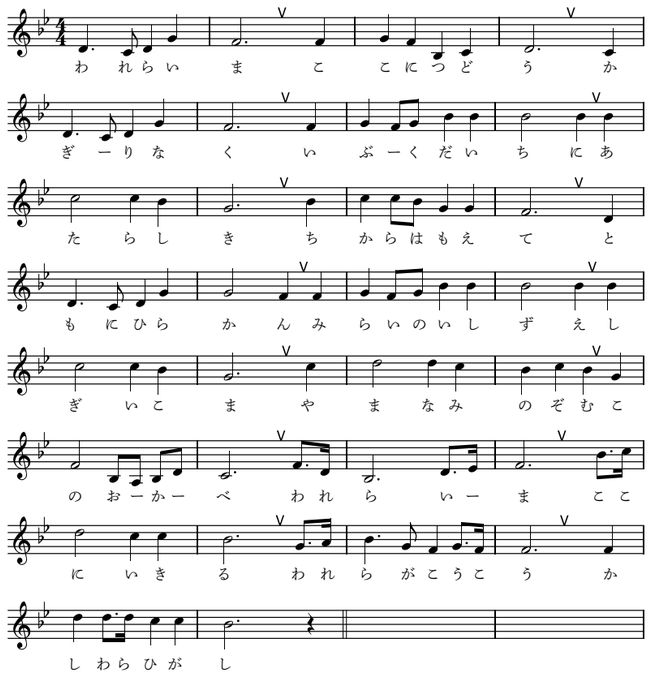
柏原東44年のあゆみ

Osaka Prefectural Kashiwarahigashi High School

柏原東高等学校校歌

作詞・田中 喜一
作曲・近藤　圭



一、我ら今ここに集う
限りなく息吹く大地に
新しき力は燃えて
ともに開かん未来の礎
信貴生駒山並みのぞむこの岡辺
我ら今ここに生きる
我らが高校柏原東

二、我ら今ここに学ぶ
豊かなる歴史を継いだ
美しき心は燃えて
ともに歩まん真理の道を
大和川さざ波光るこの岡辺
我ら今ここに育つ
我らが高校柏原東

教育目標

明るく、生き生きとした学校生活を通して、真理と平和を愛し、勤労と責任を重んじる、心身共に健全な、社会の有為な形成者を育成する。

三つのモットー

一　自ら品位を高めよう
二　困難にうち克つことに喜びを見つけよう
三　進んで公共に奉仕しよう

校　章

柏原市に初めて設置される府立高校ということから、柏原市の市章と「高」の文字を組み合わせて制作している。中央から外に向かって伸びている三本の矢に、知・徳・体の意味をもたせ、周囲に取りまいている円に、円満な人格というイメージをもたせて、「知・徳・体という三つの特性をできる限り伸ばし、調和のとれた円満な人格を形成したい」という学校の願いが象徴的にこめられている。

CONTENTS［目次］

校歌・教育目標・三つのモットー・校章……4
ごあいさつ……6
沿革……14
44年のあゆみ……20
クラブ紹介……40
生徒会……51
PTA・同窓会……53
寄稿……58
資料……61
教職員一覧……66
編集後記……74

「永遠に」

校　長
水元　誠致

３年前の同窓会の懇親会、大卒で占められている会社役員の中で唯一の高卒役員として国際的大企業を率い、世界を股にかけて飛び回っている卒業生の活躍ぶりを聞かせてもらいました。私は話を伺いながらその心意気にただ感心するばかりでした。柏原東高校を巣立った４２期生までの卒業生は総勢１万２千余人。毎年開催される同窓会に出席すると卒業生たちからそれぞれの時代の様子を教えられ、彼らこそがこの柏原東の歴史を作ってきたんだと実感させられます。教育、医療、スポーツ、音楽、ＩＣＴ関係など幅広い分野の第一線に立っている卒業生たちですが、子育てや地域での活躍を語る瞳はさらに生き生きと輝いています。同窓会の場に限らず、何気ない日常の中で「柏原東の卒業生」の頑張りを見たり聞いたりすると、頼もしく誇らしい気持ちになるのは柏原東に関わってきたすべての教職員に共通の思いなのではないでしょうか。

本校は昭和５２年、地域から望まれ柏原市唯一の公立高校として開校しました。以来、「明るく、生き生きとした学校生活を通して、真理と平和を愛し、勤労と責任を重んじる、心身ともに健全な社会の有為な形成者を育成する」との教育目標のもと、地域社会に貢献できる人材を輩出してきたのです。いつしか「熱く、厳しく、あたたかく」という教育姿勢が本校のモットーとなり、妥協することなく理想を追い求めながらも生徒一人ひとりを理解し、丁寧かつしっかりと寄り添いながら成長を育んでいくその実践は、保護者・地域の信頼を得るとともに大阪の教育に多大な貢献をしてきました。また、体育祭をはじめとする活気溢れた学校行事や地域連携型中高一貫教育、B-up タイム・特別進学コースなどの先進的な取り組みは進路指導においても十分な成果を残し、企業や関係機関からも高く評価されているところです。

これまで柏原東は大阪の教育をおしすすめる原動力になってきました。本来的に教育も人間や社会と同じように常に進歩・発展していかなければなりません。柏原東は４４年間の役割を終え閉校することになりましたが、これも大阪の教育が進歩・発展していくための通過点であり、教育の明るい未来に向けたワンステップだと考えています。本校で教鞭をとった教師たちが、柏原東から受け継いだ志をそれぞれの学校での実践の中で具現化させることがきっとその証となるはずです。さらには卒業生のみなさんも柏原東で学んだ教えをあらためて想い起すとともに、家庭や地域という場で次の世代に伝えてほしいのです。私はそれが柏原東を永遠につなぐことになると信じています。

「カシトン　ベトナムで永遠に」

大阪府立柏原東高等学校
同窓会会長
山中　篤

柏原東高等学校の閉校を迎えるにあたり同窓会を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

１９７７年（昭和５２年）春に柏原市唯一の公立高等学校として府立柏原東高等学校は開校しました。私は、第２期生として昭和５３年に入学しました。私の入学した当時は、体育館もプールもなく、ただ本校舎しかありませんでした。雨の日の体育の授業は、廊下で柏原東体操を教えてもらったことが思い出されます。

開校当時から生徒指導には力を入れられていて、近鉄国分駅の改札口を出たところに２人の先生が立っておられ、駅から２０分かけて歩き、最後に今の裏門の心臓破りの坂を登りきると門の両脇にまた生徒指導の先生が毎日服装チェックで立たれていました。開校当時から「熱く、厳しく、あたたかく」の指導がなされていました。

私は、在学中は正直言って柏原東には愛着がありませんでした。高校生活の３年間は、クラブにも入るわけでもなく、６時間目が終わると一目散に帰って地元の友達と遊ぶ生活でした。そんな私が、最後の同窓会の会長になるとは思ってもみませんでした。

人生とは分からないもので、小学校からの幼馴染で悪友の近田直人先生が赴任された事で同窓会の役員になり、３０数年ぶりにまた柏原東の門をくぐることになるとは思ってもみませんでした。

創立４０周年の記念事業を終えてすぐに八尾翠翔高校との機能統合が発表され、それに伴い柏原東が廃校になるとは同窓会の役員も信じられませんでした。

閉校が決まった事を受けて会長を引き受ける事になり、閉校に向けて同窓会をどうするか、３年後の閉校が決まって時間のない中で、同窓会として最後に何が出来るか、同窓会でいろいろ考え議論して、柏原東の教育理念を引継いでくれる学校を作ろう！となり、ＮＰＯ法人アジア教育友好協会の力を借りて、ベトナムのバクザン省ヴィエットイエン郡にキムソン分校を建設する事を同窓会で決め、令和２年９月の開校をめざしてプロジェクトを開始して、令和２年３月に建物は完成しました。そして校名がキムソン・カシトン小学校と決まり、カシトンの名前が日本では無くなってしまうが、遠く離れたベトナムで引き継いでもらう事になり、校歌・校章も使ってもらえる事になりました。

数年後にキムソン・カシトン小学校の後輩が、人手不足の日本に働きに来てくれる事を夢見て、閉校を迎えたいと思います。

「出会いに感謝」

大阪府立柏原東高等学校
ＰＴＡ会長
黒岩　真弓

二人の息子が柏原東高校に入学して、早いもので気が付けば５年が経とうとしています。

息子の入学当時、まさか自分が５年も続けてＰＴＡ役員になるとは思ってもいませんでした。閉校が決まり最終年度の会長という大役を引き受けることができたのはやはり柏原東高校だったからです。

ＰＴＡのＰは親 (Parent)、Ｔは教師 (Teacher)、Ａは (組織)　。親と教師が力を合わせて生徒を育て、成長を見守る！

まさにそのとおりの柏原東のＰＴＡは共に助け合い、生徒のために必死で考え、協議し、そして何より楽しんで活動する組織だったからだと思います。ＰＴＡ活動をさせて頂いたことで、保護者同士の繋がりや教職員との会話も増え、子供達の様子も知ることができました。又、研修会やその他の行事を通して自分自身も成長することが出来ました。素敵な仲間と出会えたことに感謝しています。

閉校記念誌の文章を依頼され、本当に閉校してしまうんだと改めて感じました。

そして柏原東高校の歴史を知るためにウィキペディアで調べてみました。

１９７７年に開校、最寄りの駅の開業は９年後、通学は大和川沿いの府道にある細い歩道を延々と歩き、最後に「川沿いから見上げればそびえたつ山のような心臓破りの坂を登る」状態だった。と書いてありました。うんうん！　今でも学校へと続く坂道はキツイですね。生徒は３年間この坂を人生と共に乗りきって色んな意味での強さを培ってきたんですよね。

他に目を引いたのは、１９９５年ごろ中退者１００人が出る困難校だったため教員を８名増やし、中退者の集中する１年生に教員を投入し３５人学級に編成した結果、中退者が１０人程度に急減した、というところです。その他にも色々な取り組みが記載されていました。凄いことだと思います。そんな改革をした柏原東高校が閉校してしまうのが勿体なくて本当に残念です。が！明るく、生き生きとした学校生活を通して、真理と平和を愛し、勤勉と責任を重んじる、心身共に健全な､社会の有為な形成者を育成する。という教育目標と①自らの品位を高めよう。②困難に打ち克つことに喜びをみつけよう。③進んで公共に奉仕しよう。という３つのモットーで、学校は閉校してしまっても成長した卒業生がこのかしとん魂をつなげていってくれると思っています。柏原東高校の卒業生が私の周りにたくさんいます。みんな心豊かで頑張り屋さんの素敵な人ばかりです。息子を柏原東高校に入学させて良かったと心から思います。出会いに感謝です。柏原東の生徒をいつも見守ってくださいました地域の方々にも感謝です。またいつかどこかでお会いできましたら柏原東高校の思い出話を聞かせてください。お世話になりましたすべての方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

「皆様に感謝」

河嵐会会長
初瀬　勝彦

大阪府立柏原東高等学校が、令和３年３月３１日をもって閉校を迎えます。柏原市唯一の府立高校として開校して以来、４４年間の歴史に幕を下ろします。この間１万数千人の卒業生を輩出し各方面で活躍されていることを思うと、寂しさがこみ上げてきます。

思い返せば子どもが在学中は、ＰＴＡ会長として様々な活動に取り組みました。社会見学会、進路見学会や講演会で見聞を広め、文化祭や体育祭などの行事には、ＰＴＡ企画で盛り上げの一助を果たしたと思います。また、登下校指導では先生方と一緒に、交通安全指導やあいさつ指導にも取り組みました。そのような活動を通して、ＰＴＡ役員間の強い団結が生まれ、河嵐会へと引き継がれていきました。

河嵐会は、学校が立つこの地域の景色の風光明媚さが京都の嵐山に似ているということで「河内嵐山」と呼ばれることから、河嵐会と名づけられました。活動が休止している時期もありましたが、４０周年を機に再スタートしました。年に一度総会を開き親睦を深めるとともに、ささやかではありますが学校への支援を行ってきました。総会では現在の学校の状況をお聞きし、会員間の近況報告や当時の思い出話に花が咲いています。最終年度となる令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で様々な学校行事等が中止や変更、縮小を余儀なくされました。しかし、最後の体育祭では河嵐会として全生徒に栄養補助食品とドリンクを差し入れ、その成功に貢献できたことを光栄に思います。

柏原東高校は、柏原市唯一の府立高校として柏原市との連携を深め、平成２３年度からは柏原地域連携型中高一貫教育が始まり、柏原市立中学校と書写授業や部活動などで連携を続けてきました。しかし、生徒は柏原市だけでなく八尾市や東大阪市、学区が撤廃されてからは藤井寺市や羽曳野市からも入学しています。そういう意味で、柏原市をはじめとする中河内地域の学校として多くの皆様に支えられてきた学校だと思います。柏原東高校は閉校することになりましたが、ここで学び巣立った生徒たちやその保護者、関係者のつながりがなくなるわけではありません。柏原東高校の教育にかかわることができたことを誇りに思い、今後このつながりをさらに強めていけたらと思います。教職員や保護者の皆様、温かく支えていただいた地域の皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。

「生徒を代表して」

大阪府立柏原東高等学校
生徒会会長
関本　優

大阪府立柏原東高等学校の機能統合に際し、生徒を代表してこうして皆様にご挨拶できることをとても光栄に感じる一方、母校がなくなってしまう寂しさを強く感じています。

44 年という長い歴史を紡いでこられた卒業生の方をはじめ、保護者の皆様、地域の住民の方々のたくさんの思い出が詰まったこの校舎で３年間の高校生活を送ることができたことを誇りに感じています。

思い返せば平成 30 年 4 月、期待と不安を胸に抱きながら、私たちは柏原東高校 42 期生として入学しました。1 年生の頃は、初めて出会うクラスメイトばかりで不安でしたが、日々の生活や体育祭の団活動を通じて、不安な気持ちはどこかへ消え去り、高校生活を楽しみたいという前向きな気持ちにかわっていきました。先輩方は、私たち後輩を楽しませるために率先して明るく楽しく導いてくださいました。そんな先輩方の姿に憧れ、私もみんなを楽しませたいという気持ちが日に日に強くなっていったことを覚えています。

2 年生になると、後輩が入ってこず、学校全体の人数が減り、寂しさを感じることが増えました。しかし、少ない人数の中で行事を工夫したりすることで、楽しく高校生活を送ることができました。1 年生の時に芽生えた、「みんなを楽しませたい」という気持ちから、私は生徒会執行部に入り、文化祭を企画しました。人数が少ない中、どうすればみんなに楽しんでもらえるか悩むことが多くありましたが、文化祭が終わったときに、たくさんの方から感謝の言葉をかけてもらい、「みんなを楽しませたい」という気持ちが形になった嬉しさとともに、もっともっと残りの学校生活を楽しませたいという気持ちはさらに強くなっていきました。

こうして充実した毎日を過ごすことができたおかげで、行事だけでなく日々の授業や休み時間、登下校も私たちにとっては楽しい思い出になっています。

3 年生になった今、改めてこの柏原東高校を選んでよかったと心から思っています。尊敬する先生に出会え、信頼できる仲間や優しく手を差し伸べてくださった先輩方と出会えたことは、感謝してもしきれません。この思いは、きっと今までの先輩方も同じように感じておられたことだと思うと、機能統合し柏原東高校の名がなくなることが残念でなりません。しかし、学校がなくなっても、柏原東高校は私たちの記憶の中に残り続けます。

柏原東高校の最後の卒業生になることに誇りを持ち、これからの人生を歩んでいきます。

柏原東高校、本当にありがとう。

「思い出すことども」

第３代校長
玉井　庄平

私は昭和６０年（１９８５年）春、柏原東高等学校に、石香 享校長を継ぎ、３代目の校長として着任致しました。

当校に初めて訪れた時は、堂々とした校舎が高台に建ち、四方が豊かな自然に囲まれ、下方には大和川の清流が望め、良い印象でした。

その頃は生徒増の時期で、各学年１２クラスの時代でした。で柏原東高校も所謂マンモス校だった訳です。当時大阪府は１年に１０校の高等学校を新設したこともあったのです。

さて、私が当初に赴任しました年の６月に、ＪＲ高井田駅が開設され、その祝賀会に招待されて出席しました。その日から高井田駅からの通勤となりました。それ迄は堅上駅から３０分余りの歩きでした。

当校では月に１回の全校集会がグランドで行われていました。で毎回学校長が講話をするのですが、これを私は最も大切な仕事だと考え、これに集中しました。何をどういう形でしゃべるかを、幾日もかけて考えたものでした。生徒たちが真剣に耳を傾けるようになるよう、話す中身を随分とあれこれ考えました。又この集会では、全教員が外に出て静かに聞くよう、なりふり構わずに指導して頂きました。ですからこの集会に対して今も良い印象が残っています。

柏原東は大きな学校で、元気な生徒も多く、先生方は実に多忙を極め、よく働いてくれました。誰一人労働時間を意識なぞしていなかったようです。私も幾度か生徒の家を訪ねたことがありました。大阪府教育委員会は、諸般の事情で、有能な教員を揃えてくれたのでしょう。

他方、校長として最も有難かった事は、教頭･事務長が献身的で苦労を厭わず、常に校長･教頭･事務長が三位一体であった事です。

さて或るＰＴＡ役員会で一人が「校長さん、下の大和川を見に行きましたか。ここは河内嵐山と言うんです。」とおっしゃいました。私はずっとＪＲ志都美駅近くに住んでおり、よく天王寺や難波に出かけます。いつも車中から柏原東高等学校の校舎や、下の大和川の流れを眺めています。生徒の減少とはいえ、この名前が無くなるのは本当に淋しい限りです。

最後にもう一つの思い出です。或る日、学校の裏山を散策したことがありました。そこにはあちこちに古墳らしきものがあったのです。びっくりしました。柏原東は誠に古い土地柄だと初めて知りました。今はしっかり保存されているとは思っております。

終わりに、柏原東高等学校のあの大きな建物が、何らかの形で人々に利用され、役立つことを心から願ってこの文を終わります。

「柏東での３年間で想うこと」

第５代校長
杉本　博

柏原市に唯一の府立学校として「柏東」の愛称のもとに昭和５２年に誕生した柏原東高校も、この地に根を下ろして４４年の歳月を重ねて、ゆるぎなき歴史を創ってこられましたが、令和３年には最後の卒業生を送り出し、その歴史を閉じると知り底知れぬ悔しさと無力感を覚えました。

私が赴任いたしました平成３年当時は、歴代校長をはじめとして教職員・同窓先輩・保護者の皆さん方の絶えざる基礎づくりのご辛労のお陰をもちまして、本校はより安定した清楚な校風樹立を目指して努力漸進して参りました。

従来の知育に傾いた教育の中で、ともすれば疎かにされてきた豊かな心を培うことが、本校の教育目標の一つであり、教職員一同の共通理解のもとに教育実践に努めてきたところでありました。

豊かな心は､自然の美しさ･神秘さ･厳しさに感動する心であります。幸い本校は、生駒山系の丘陵地の中腹に位置し、眼下に雄大な大和川の流れを・広大な河内平野を眺めながらの学習環境にあり、四季折々の変化に恵まれておりました。通学路の傍らに咲く名もない草の花。春には桜並木。川面を撫でる爽やかな風。丘陵一面の葡萄畑。谷間にこだまする学舎の歓声等々…こうした自然の美しさを自然体で感じながら豊かな心を培うことの出来るのが府立柏原東高等学校であったと自負しています。

知育に傾いた教育のなかで、疎かにされてきた豊かな心を培う教育が、大阪府下でも数少ない、恵まれた自然環境のなかで経験出来たことを誇りに思っています。

私の教員生活の最後が柏原東高校で過ごせたことを心より感謝しております。

大阪府立柏原東高等学校と云う名称は無くなれども､｢柏東魂｣は永遠で不滅です。

「心想事成」

第６代校長
朝田　省三

私が平成６（１９９４）年４月に柏原東高校へ赴任し３年間在職致しました。本校は柏原市の小高い丘陵地に位置し自然に恵まれた環境にある。この風光明媚な景色を見て江戸時代後期の儒学者・漢詩人の瀬山陽が「河内嵐山」と賛美した程です。

今回、本校が統廃合で４４年間の教育活動を終えて閉校に到ったのはとても心の痛む思いである。在職当時、多くの教職員・ＰＴＡ・地域の方々のご支援により本校で多数の未来を築く生徒達が勉学にクラブに勤しむ事が出来ました。

当時、府の教育委員会の方針で多くの優秀な教員が本校に赴任しました。本校の各クラブ活動は活発だった。その中でも野球部が早朝に大声で掛け声を上げたり、ノックするバットの快音をグランドいっぱいに響かせていた。野球部の早朝練習は教職員･生徒達に感動を与えていた､在任中の平成７（１９９５）年１月「阪神・淡路大震災」・同３月に「地下鉄サリン事件」が発生。平成８（１９９６）年１１月１６日に「本校創立二十周年記念式典」を八尾市立プリズム・ホールで挙行致しました。

「万物は流転する」という言葉があります。将来、ＩＴ（情報技術）で教育手段･方法等に様々な教育変革がある。本校の閉校を機に新たに「柏原東の教育」が再生すると信じる。柏原東高校の閉校は「卒業」と捉え､多くの同窓生に「心想事成」の言葉を贈りたい｡「心に想えば必ず夢は実現する」と信じ､大いに活躍してほしい。時空を超えて「柏原東（かしとん）精神は未来永劫に存続する！」

「４年間を振り返って」

第７代校長
西江　光衛

年月の経つのは早く、退職してはや２０年の歳月が流れました。私は、創立２１年目の平成９年４月に着任し、退職までの４年間、全教職員による弛み無い教育活動の実践と、ＰＴＡ・河嵐会の方々のご理解とご支援に支えられ、微力ながらも職責を全うすることができました。改めて厚く御礼申し上げます。

生徒が生き生きとした高校生活を送り、全員笑顔で卒業式を迎えられるよう、教職員一丸となり教育活動を展開してきました。入学生が、本校に早く馴染み定着するよう、１年生の学級定員４０人を３５人の少人数学級とする指導体制を継続し、基礎学力の充実に努めました。２・３年生に対しても、進路に応じた多様な選択科目を設定するなど、よりきめ細かな教育指導の実践により、年々中退防止の効果が顕われてきました。生徒諸君は、河内嵐山ともいわれる風光明媚な自然環境のもと、教科学習や教科外活動にと積極的に取り組んでくれました。体育祭や文化祭、修学旅行などでの輝いていた瞳が、今でも目に浮かんできます。本校の更なる発展を願い、平成１３年３月末で退職しました。少子化に伴う生徒数減少のなか、柏原市内唯一の府立高校として、その存続に一縷の望みを託していました。しかし、残念ながら創立以来４４年の幕を閉じることになり、関係者の一人として無念さと寂しさが込み上げてきます。

創立来培ってきた本校の良き伝統が、「八尾翠翔高等学校」において継承され、益々発展するよう衷心より祈念いたします。

「ご挨拶」

第 11 代校長
岸田　良

平成２１年より平成２３年まで柏原東高校で校長をさせていただきました。当時、本校は、柏原市立６中学校と連携型中高一貫教育を立ち上げようとしているところで、赴任しました時の印象は、理念の共有や実際の工程、施策は、半ば途中であったように思います。そのような状況下で「やれることからやって行こう」という気風が、年々、教員集団の中に膨らみ、これまでになかった柏東の教育活動を生み出しました。その一つが「書写・書道、出前授業」です。連携教育の原点に立ち、「多感な子どもたちの成長に少しでもつなげたい」という思いからのスタートでした。高校の書道は中学校での書道と違い枠にはまりません。紙の大きさ、字の大きさ、形等こだわる事なく、感じたこと、思った事をありのままに表現する。初年度は、教材の墨や紙はほぼ高校側が負担し、また、床をよごさないようにと、シートを準備し、その他教具類一式を車に積み込んでの６中学校への訪問でした。ご苦労いただく担当の先生と「旅芸人のようですね」と笑いながら言葉を交わした事を今も覚えています。そして、中高の力作をリビエールホールに合同展示し、地域の人たちとも共有できました。

さて、この過程は、人の歩みにもあてはまると思っています。卒業生の皆さん、在校生の皆さん、柏原東高校は閉校となりますが、在学中に学んだことは現在の自分を支える大切な一部です。そして、それは未来の自分の歩みに生かすことができます。そのことを忘れないようにしてください。

「閉校に寄せて」

第 13 代校長
山根　眞一

柏原東高校には平成２７年４月に着任し１年間お世話になりました。

校長として初めて生徒たちに話をした着任式、話した内容は全く覚えていませんが、話を聞く生徒たちの姿は強く印象に残っています。生徒全員がしっかり私の方を見て、全くと言っていいほど視線を外さないその姿に「なんて気持ちの良い生徒たちだろう」と感動し、「この生徒たちなら色んなことができそうだな」と思ったことを覚えています。

こうしてスタートした柏原東高校での日々は私の教育に対する考え方に強いインパクトを与えてくれました。気持ちの良い生徒たちと厳しくも寄り添う教職員が共に創りあげる教育活動の数々、その中でも基礎学力定着をめざす「B-up タイム」や３年間で４年間分の学習量を確保する「特別進学コース」の取り組みなどは、学校経営を考える上でこれらの取り組みをどうやって成し得てきたのかという疑問を常に私に抱かせていました。しかし多くの方からその経緯や先輩方のご苦労を教えていただくことで疑問は解け、学校経営に必要なことが何なのかを知ることができました。この経験がその後の私の学校経営には欠かせないものとなっていたのは言うまでもありません。

時代の趨勢とはいえその柏原東高校が閉校されることは本当に残念でたまりません。しかし閉校されても、今までに培われた伝統やその輝かしい歴史は決して絶えることなく、いつまでも受け継がれていくものと確信しています。

柏原東高校、本当にありがとうございました。

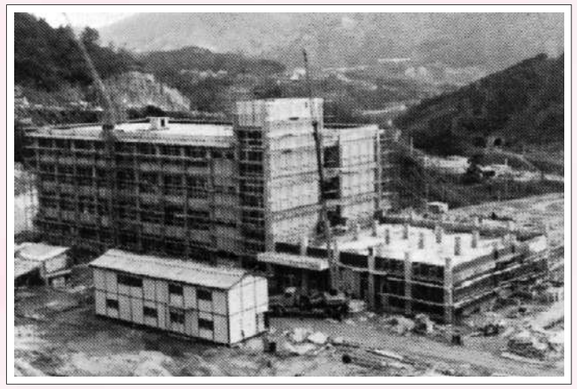
沿　革

昭和51年(1976)

4月15日　府議会において大阪府立第109高等学校(仮称)設立のため建設予算議決
大阪府教育委員会事務局高等学校設立準備室において開校準備事務の開始
6月 9日　第1期工事着工(創立記念日)
12月17日　大阪府立柏原東高等学校として設置条例の議決

昭和52年(1977)

2月28日　第1期工事竣工
4月 1日　大阪府立柏原東高等学校全日制普通課程　開校
教職員 35名　1期生 552(12学級)入学
4月 8日　第1回入学式挙行
大阪府立柏原東高等学校PTA設立

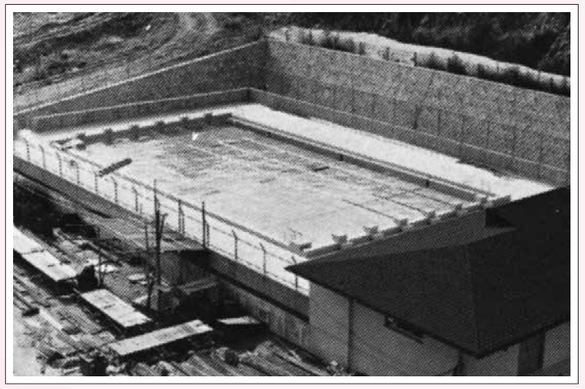


昭和51年6月9日 第1期工事着工(創立記念日)

昭和52年4月8日 第1回入学式

昭和53年(1978)

2月28日　第2期工事竣工
6月30日　プール工事竣工
10月31日　体育館工事竣工
11月11日　体育館落成記念式典挙行
校歌制定及び発表会



昭和53年6月30日 プール工事竣工

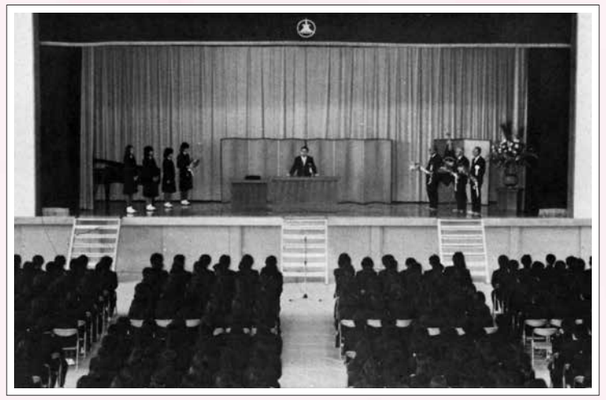
昭和54年(1979)

2月28日　第3期工事竣工
3月15日　校舎北側斜面防護工事竣工

昭和55年(1980)

2月25日　第1回卒業式挙行
5月31日　第4期工事竣工
9月12日　通学路(柏原市道)完成
9月22日　通学路開通式挙行

昭和53年11月11日 体育館落成記念式典



昭和55年2月25日 第1回卒業式

昭和55年9月12日 通学路(柏原市道)完成

昭和56年(1981)

11月 7日　創立5周年記念式典挙行

昭和61年(1986)

11月 8日　創立10周年記念式典挙行

平成2年(1990)

10月 1日　情報処理教室(LAN教室)竣工

平成3年(1991)

4月 1日　男子制服改定

平成7年(1995)

4月 1日　情報処理(商業)コース開校
　　女子制服改定

平成2年10月1日 情報処理教室(LAN教室)竣工

平成8年(1996)

4月 1日　ワープロ教室竣工
11月16日　創立20周年記念式典挙行

平成12年(2000)

9月30日　玄関トイレ等福祉整備工事竣工

昭和56年11月7日 創立5周年記念式典挙行

昭和61年11月8日 創立10周年記念式典挙行

平成14年(2002)

9月10日　校舎棟外壁改修その他工事竣工

平成18年(2006)

11月11日　創立30周年記念式典挙行

平成19年(2007)

4月 1日　男女制服全面改定

平成23年(2011)

4月 1日　柏原地域連携型中高一貫教育実施
　　書道制作室整備工事竣工

平成24年(2012)

4月 1日　特別教室(美術・書道・LL教室)、
　　空調設備設置工事竣工

平成19年4月1日 男女制服全面改定

平成25年(2013)

4月 1日　特別進学コース開設
　　B-up(Brush-up)タイム開始

平成28年(2016)

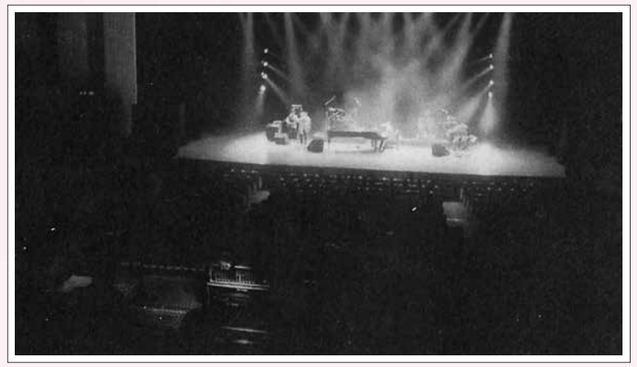
11月12日　創立40周年記念式典挙行

平成29年(2017)

11月17日　大阪府立学校条例及び大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画平成29年度実施対象校となる。

令和3年(2021)

3月 7日　第42回卒業式・閉校式・同窓会解散式挙行
3月31日　閉校



平成8年11月16日 創立20周年記念式典挙行

平成28年11月12日 創立40周年記念式典挙行

本校周辺の歴史的環境

1.本校の位置とその建設に至る経過

―古墳を破壊してつくられた学校―

本校は生駒山地の南端に位置し、南に大和川が流れている。本校建設以前、本館の北側から南方のグランド側、さらには大和川に向けて大きな尾根が伸びていた。

この地は古墳時代後期(約1450年前)の大型群集墳として、全国的に有名な「平尾山古墳群」の南方部にあたる。古墳群の範囲は東西約1km、南北約1.3kmで、古墳は標高約40～230mに分布している。6世紀前半～7世紀後半にかけて築造された古墳が約250基あり、ほとんどが花崗岩を架構した横穴式石室を内部にもつ円墳である。また群内には、いわゆる終末期古墳とよばれる、特異な構造をもつ横口式石槨も数基含まれている。

これらの多くの古墳がブドウ畑や雑木林のもとで極めて良好な状態(美しい自然環境に包まれたかたち)で保存されてきた。

平尾山古墳群は、古代有力氏族の物部氏や渡来系氏族の墳墓群であろうと推定され、40年以上前から筆者をはじめ研究者が分布調査を実施し、その重要性を広く訴え、全域保存の必要性を働きかけてきた。

しかし、1969(昭和44)年以降、急速な採土工事において、ダイナマイト爆破やブルドーザーによって約50～100基の古墳が次々と破壊された。この間、大阪府や柏原市による発掘調査は行われず、横穴式石室の石材が各所に散乱した状態であった。工事後、跡地は建設会社数社に転売され、最後に大阪府の所有となり、この地に本校が建設されたわけである。

2.本校周辺は歴史の宝庫

―歴史的文化財がいっぱい―

(1)古墳時代

本校の正門・プールのすぐ北斜面上に古墳がある。平尾山古墳群内の古墳である。さらに北方柏原市域一帯に古墳群が広がっている。これらを総称して「堅上・堅下古墳群」という。古墳総数は1500基をこえるであろう。ほとんどが古墳時代後期のものであるが、これらと同時期に造営された高井田横穴群が本校の西方、JR高井田駅の北側丘陵上にある。これは平尾山古墳群内の古墳のように花崗岩を積み上げたものでなく、凝灰岩層を堀りくぼめて、200基以上の横穴をつくり、遺体を埋葬する施設としたものである。いくつかの横穴が宅地造成のために破壊されたが国史跡に指定、史跡公園として整備され柏原市立歴史資料館も建設(館内には、市内の遺跡からの出土品や大和川付け替え関係の資料も展示)されている。

高井田横穴群内の30数基の横穴に、馬や船にのる人物などの線刻画を描いている。同様の横穴群は西南方の玉手山丘陵北寄りの安福寺横穴群・玉手山東横穴群などがある。これらは、古代有力氏族の太(多)氏、あるいは土師氏や渡来系氏族の同族集団の墳墓群と推定される。

横穴式石室と横穴の被葬者・築造者集団の間に階層や氏族による相違がみられるのではないかと考えることもできる。また高井田横穴群内の高井田山古墳は、特異な遺物を出土し、古い時期の横穴式石室として、横穴群の被葬者との関連を再検討する必要がある。

これらよりも古い時期の古墳群が松岳山古墳群(国史跡。本校の南、大和川を隔てた松岳山丘陵上)と玉手山古墳群(近鉄国分駅の西方、玉手山丘陵上)である。いずれも古墳時代前期(約1650年前)の前方後円墳をもつ有名な古墳群として全国的に知られている。これらの古墳群は、「倭(大和・ヤマト)政権」が河内への進出のため河内の出入口に造営されたもの、あるいはいわゆる「河内政権」の基盤となった有力氏族の首長たちの墳墓群と推定される。つまりこの周辺に渡来系氏族をはじめ有力氏族が配置され、政治・文化面でも地域支配を推進した重要な地域であったことがわかる。

(2)奈良時代

飛鳥～奈良時代、大和と難波を結ぶ中間地点として、国分・高井田付近は重要であった。中国・朝鮮の文化を受け入れるための大和の玄関口であり、遣隋使や遣唐使たちが通行した地点に近かったからである。

次に『続日本紀』や『万葉集』などの史料から当時のこの地の様子をながめてみることにしよう。

大和国平城宮(奈良市)から摂津国難波宮(大阪市)への、天皇の行幸などの往還ルートにあたる河内国で一泊するために造営されたのが、『続日本紀』にみえる竹原井頓宮(たかはらいのかりのみや・柏原市青谷)である。この地は、大和川をのぞむ景勝地であり、発掘調査によって建物跡が確認されている。さらに『万葉集』に記された「岡辺の道」は「竜田道(越)」のことであり、「島山」は「芝山」をさすものと考えられ、古くから多くの人々が当地を往還し、注目された地域であったことが理解される。

竜田道からは「河内大橋」(『万葉集』に記された赤く塗られた橋で、「古大和川」上流に架かっていたと考えられる)を渡り、河内国の中心、河内国府(藤井寺市)にも行くことができ、北流する古大和川の堤防上の道「渋河路」を通り、難波に至ることもできた交通の要地である。

奈良時代の聖武天皇の皇后、光明皇后は古代の有力氏族の田辺氏と深いつながりをもつ。田辺氏の氏寺、田辺廃寺(柏原市田辺)には瓦積と塼積基檀をもつ三重塔が二基あった。田辺廃寺の東方、本校の南方には七重塔を有する河内国分寺(柏原市国分東条町)が、その近くに国分尼寺もあった。“国分”の地名はこれに由来する。

聖武天皇と光明皇后の子、孝謙(称徳)天皇は、『続日本紀』にみえる智識寺南行宮(『万葉集』には河内離宮と記されている。柏原市安堂)の造営と、のちには歴史上著名な弓削道鏡(ゆげのどうきょう)との関係のなかで弓削宮(由義宮、八尾市)の造営にかかるが、称徳天皇の死後、道鏡の失脚によって未完のまま放棄されたと考えられる。

柏原市域の生駒山地南端西麓に建立されたという「河内六寺」は、南から鳥坂寺(柏原市高井田)・家原寺(安堂)・智識寺(大平寺)・山下寺(大県)・大里寺(大県)・三宅寺(平野)で、これらの寺々を聖武天皇・光明皇后・孝謙(称徳)天皇らが参拝したことが『続日本紀』からわかる。天皇の病気平癒や国家安泰を願ったという。

のちに東大寺大仏造立にいたる聖武天皇らが智識寺にあった塑像(そぞう・木心に粘土を重ねて造られた像)を見て、銅造による大仏造立を発願したといわれている。

いずれにしても、この地が政治・宗教・文化の先進地として着目された地域であり、ここに多くの渡来系氏族や僧侶・民衆が居住し、活躍していたことを忘れてはならない。

河内六寺が、のちに『伊勢物語』などに語られる在原業平の伝承をもつ業平道に沿って建立されており、並行して南北に伸びる東高野街道(京街道ともいう。旧170号線)と、今も地元の人々の信仰を集め、生駒山地西麓部に点々と分布する多くの古い神社(式内社)の存在は、見逃せないものである。

本校とその周辺には文化財が数多く、歴史的環境と美しい自然環境にめぐまれている。我々は、そのような環境に包まれながら、それらの保存と活用をめざして、これからの生活を真剣に考えていかねばならない。

(社会科　吉岡　哲)

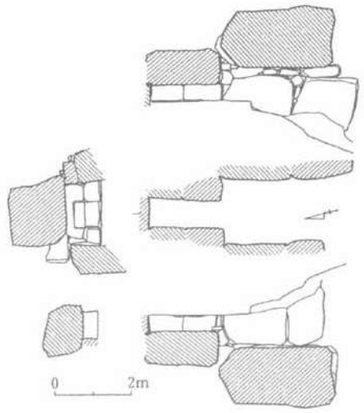
平尾山古墳群内の墳丘と石室を破壊された古墳

古墳を破壊したあとに建てられた本校(北から)後方に芝山がみえる

平尾山古墳群内の破壊された古墳の石材

平尾山古墳群の横口式石槨(平尾山102号墳)

平尾山古墳群　破壊経過図(①→⑤)　本校位置(①・③・⑤)
Ⓐ平尾山古墳群 Ⓑ高井田横穴群 Ⓒ芝山 Ⓓ竹原井頓宮跡(青谷遺跡)



平尾山古墳群内の横口式石槨実測図(平尾山102号墳)

(30周年記念誌より引用)